宮古島市教育委員会

宮古島市neo歴史文化ロード

宮古島市neo歴史文化ロード　綾道　～伊良部島コース～

綾道（あやんつ）

伊良部島（いらぶじま）コース

綾道（あやんつ）

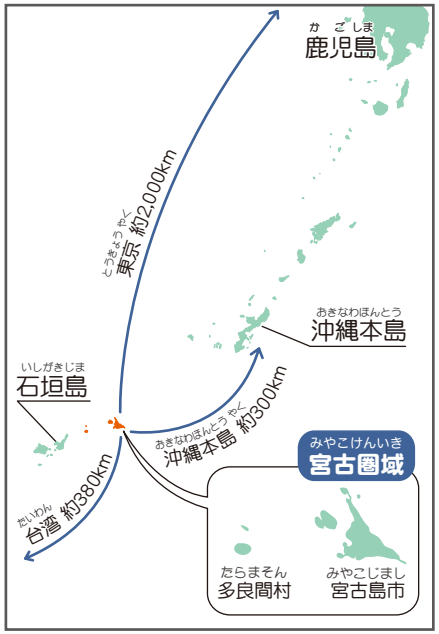
「趣（おもむき）のある道（みち）」のことを、宮古島（みやこじま）のことばで「あやんつ」といいます

宮古島市の位置と面積

宮古島市は大小６つの島（宮古島、池間島、大神島、来間島、伊良部島、下地島）で構成されています。

総面積は204km²、人口約５万5,000人で、人口の大部分は平良地区に集中しています。

島全体がほぼ平坦で、山岳部や大きな河川もなく、生活用水などのほとんどを地下水に頼っています。



伊良部地区

伊良部地区は、伊良部島と、下地島のふたつの島で成り立っています。

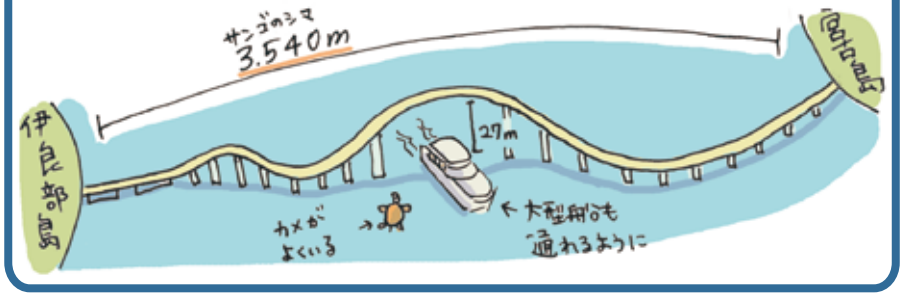
人口は約5,300人(2015年現在)で、無料の橋としては日本で一番長い伊良部大橋によって、宮古島と結ばれています。

宮古島と伊良部島を結ぶ 伊良部大橋

昔の木造船

離島の離島である伊良部島にとって、宮古島との往来に船が欠かせませんでした。

1940年６月30日。平良港から渡口の浜へ向かう、伊良部村有船「共栄丸」が、折からの強風に煽られ、島を目の前にして沈没し、73名が犠牲となる海難事故が発生しました。事故から75年となる2015年１月31日、島民の念願であった伊良部大橋が完成し、船に代わる新たな大動脈となりました。



伊良部島 散策マップ

白鳥崎岩礁海岸地域 P42
フナウサギバナタ
佐和田の浜
珊瑚礁・礁瑚面 P32
佐和田
大竹中洞穴 P40
佐和田ユークイ P37
黒浜御嶽 P30
腕山御嶽 P38
アラガー P36
長浜
魚垣 P34
佐和田の浜
204
下地島空港
国仲御嶽の
植物群落 P52
204
90
下地島の通り池 P44
神里ガー P64
国仲
下地島巨岩 P46
ダキフガー P65
フナハガー P61
乗瀬御嶽 P58
仲地
渡口の浜
下地島
下地島南・西岩礁海岸 P66

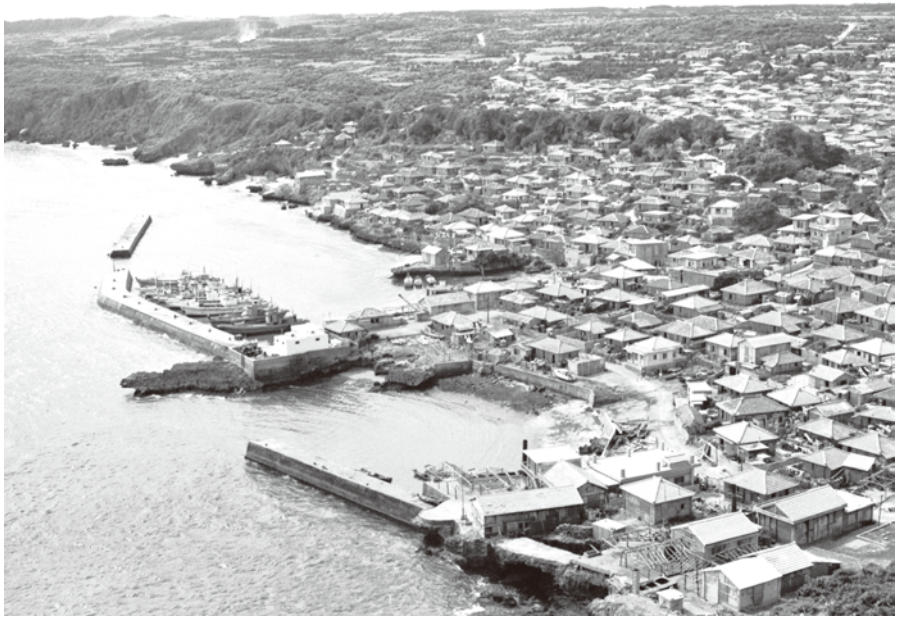
N
詳細マップ
P10
北区
(佐良浜)P08
P28
P48
P56
南区
(伊良部)P24
伊良部島
サバウツガー P18
204
前里添
大主御嶽 P14
命根御嶽 P16
大和神屋 P17
佐良浜ミャークヅツ P12
90
慰霊碑・忠魂碑 P54
ピャーズ御嶽 P22
仲地の
ナカドゥイ御嶽 P63
池間添
牧山展望台
牧山陣地壕 P55
伊良部の
ナカドゥイ御嶽 P62
ヤマトブー大岩 P19
スサビミャーカ P60
伊良部
牧山台地のアブ群 P20
204
252
伊良部大橋
伊良部丸遭難の碑

宮古島市neo歴史文化ロード **綾道(伊良部島コース)**

宮古島市の位置と面積 02
伊良部地区/宮古島と伊良部島を結ぶ伊良部大橋 03
伊良部島 散策マップ 04
北区(佐良浜) 池間添・前里添 08
伊良部島だけで完結？！カツオ漁のしくみ 09
佐良浜 散策マップ 10
佐良浜ミャークヅツ 市指定無形民俗 12
大主御嶽 御嶽 14
３つの大主御嶽 15
命根御嶽 御嶽 16
秋田の人が祀られる大和神屋～秋田能代船 漂流記～ 17
サバウツガー 市指定史跡 18
ヤマトブー大岩 市指定史跡 19
牧山台地のアブ群 市指定史跡 20
ピャーズ御嶽(クンマウキャー) 市指定史跡 22
豊見氏親ものがたり 23
南区(伊良部) 佐和田・長浜・国仲・仲地・伊良部 24
さとうきびと島/下地島と空港 25
入江と集落 26
佐和田・長浜 散策マップ 28
黒浜御嶽 市指定史跡 30
村建てのお話/旧暦と干支 31
佐和田の浜珊瑚礁・礁湖面 市指定名勝 32
さまざまな珊瑚礁 33
魚垣 市指定有形民俗 34
アラガー 市指定史跡 36
佐和田ユークイ(嵩原御嶽) 市指定史跡 37
腕山御嶽 御嶽 38
島のルーツを探れ！ 39
大竹中洞穴 市指定天然記念物(地質) 40
白鳥崎岩礁海岸地域 市指定名勝 42
宮古の島を守る！？植物たち 43
下地島の通り池 国指定名勝・県指定天然記念物(地質) 44
継子伝説 45
下地島巨岩 市指定史跡 46
ヨナタマ伝説～繰り返し押し寄せた古代大津波の証～ 47
国仲 散策マップ 48
伊良部村役場跡 史跡 50
伊良部島の発展に尽力した村長 国仲寛徒 51
国仲御嶽の植物群落 県指定天然記念物(植物) 52
伊良部島の戦跡 54
仲地・伊良部 散策マップ 56
乗瀬御嶽 市指定史跡 58
玉メガものがたり/ウプカニ御嶽 59
スサビミャーカ(巨石墓) 市指定史跡 60
フナハガー 市指定史跡 61
伊良部のナカドゥイ御嶽 御嶽 62
仲地のナカドゥイ御嶽 御嶽 63
神里ガー 市指定史跡 64
ダキフガー 市指定史跡 65
下地島南・西岩礁海岸 市指定名勝 66
伊良部島の歴史 67
文化財の体系図 68

北区（佐良浜）

池間添・前里添



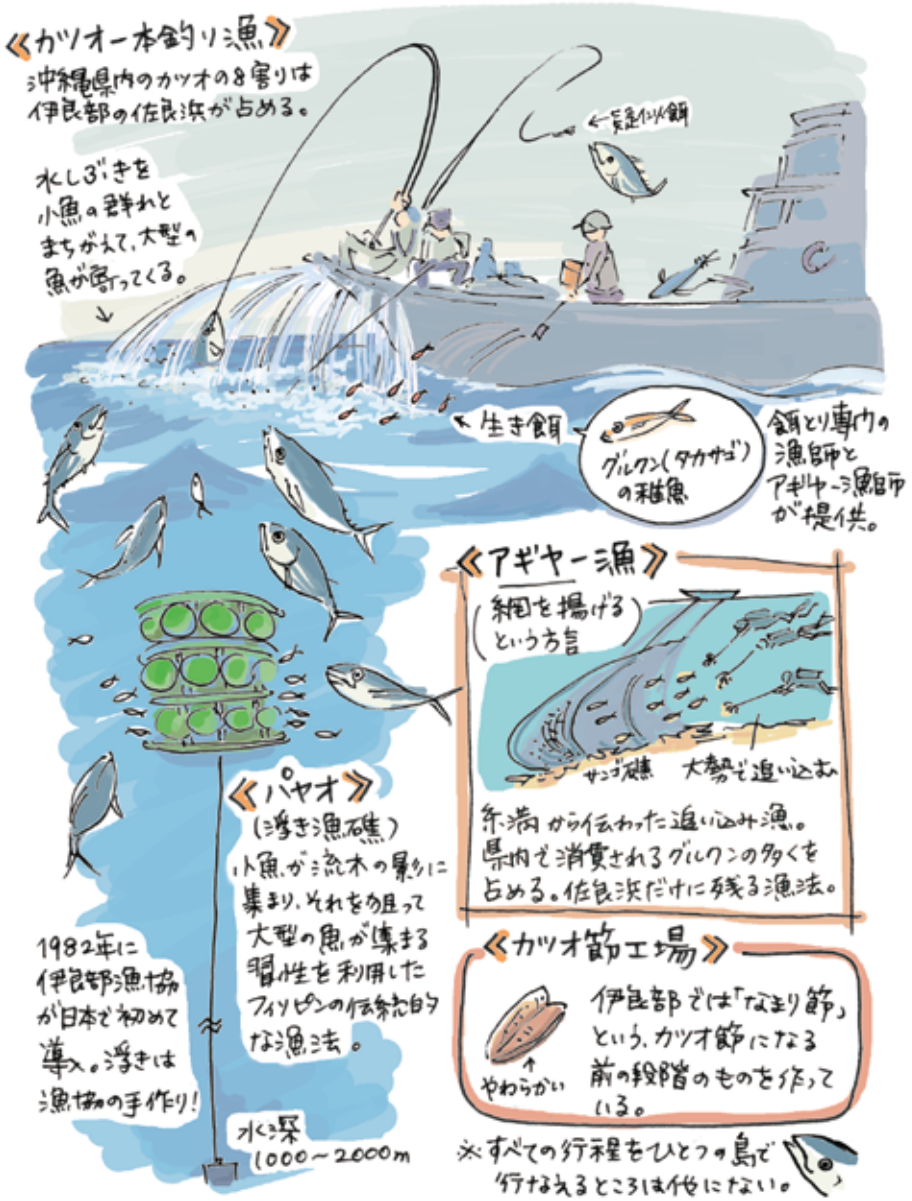
1965年の佐良浜 (沖縄公文書館 USCAR広報局写真資料12-4 46-36-1)

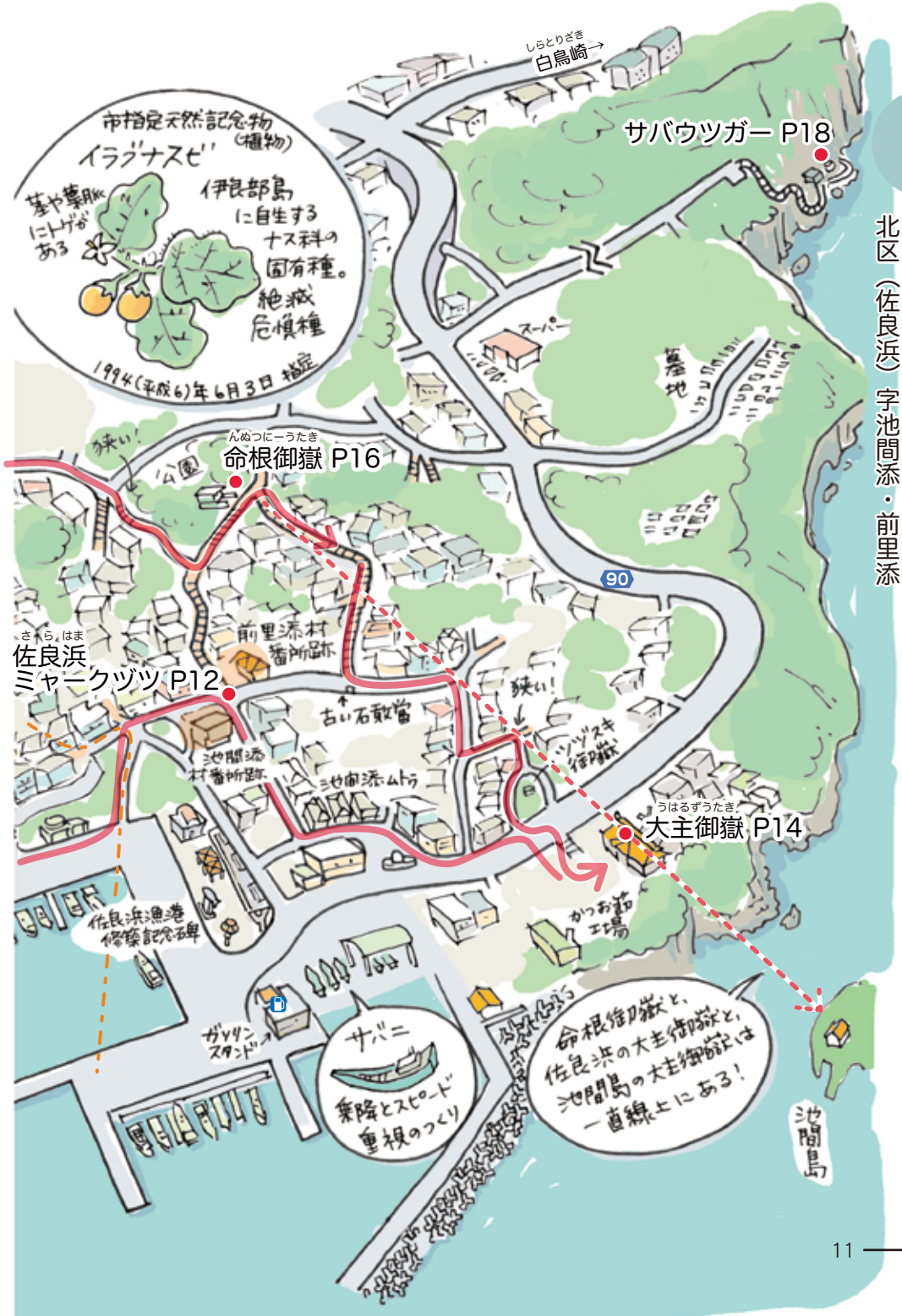
18世紀の中頃、琉球王府の命によって強制移住させられた池間島の14戸が、初めて佐良浜に定住しました。現在は池間添と前里添のふたつの字があり、漁業を中心に栄えてきました。

鹿児島出身の鮫島幸兵衛によって、池間島で始められたカツオ漁は、1909(明治42)年に佐良浜へも伝わりました。また、愛媛から女工を招いて、カツオ節の製造も始まりました。

佐良浜の地名の由来は、ザラザラとした石のある浜辺を「佐那浜」と呼んだことによります。

伊良部島だけで完結？！カツオ漁のしくみ





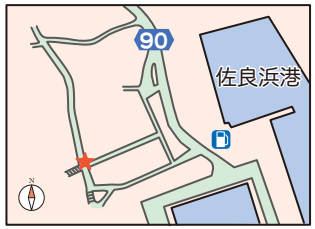
北区（佐良浜）字池間添・前里添

市指定無形民俗　1994(平成６)年６月25日指定

佐良浜ミャークヅツ

佐良浜のミャークヅツは、池間添と前里添の人たちが総出で行う盛大な祭りです。「ムトゥ*1」を中心に、旧暦の八月または九月の甲午の日から４日間に亘って行われ、初日を「アラビ」、２日目を「ンナカヌヒー」、３日目を「アトヌヒー」、４日目を「ブートイビー」と呼びます。

佐良浜のミャークヅツは、元島*2である池間島から伝わり、同じ元島を持つ西原地区でも行われています。



佐良浜のミャークヅツ

*1 ムトゥ：「元」を語源とし、本島などでは血縁集団をいうが、宮古では村落内の祭祀儀礼集団と祭祀を指す。また祭祀を行う場所を指すとも言われている。　*2 元島：現在の集落の元、村建ての起源となった場所のこと

大主御嶽

佐良浜の大主御嶽には、池間島の大主御嶽の分神、「うらせりくためなうの真主」が祀られています。池間島から移住した人々は、1840年頃、佐良浜の地に大主御嶽を造るまで、海を渡り、元島である池間島で祭祀を行っていました。

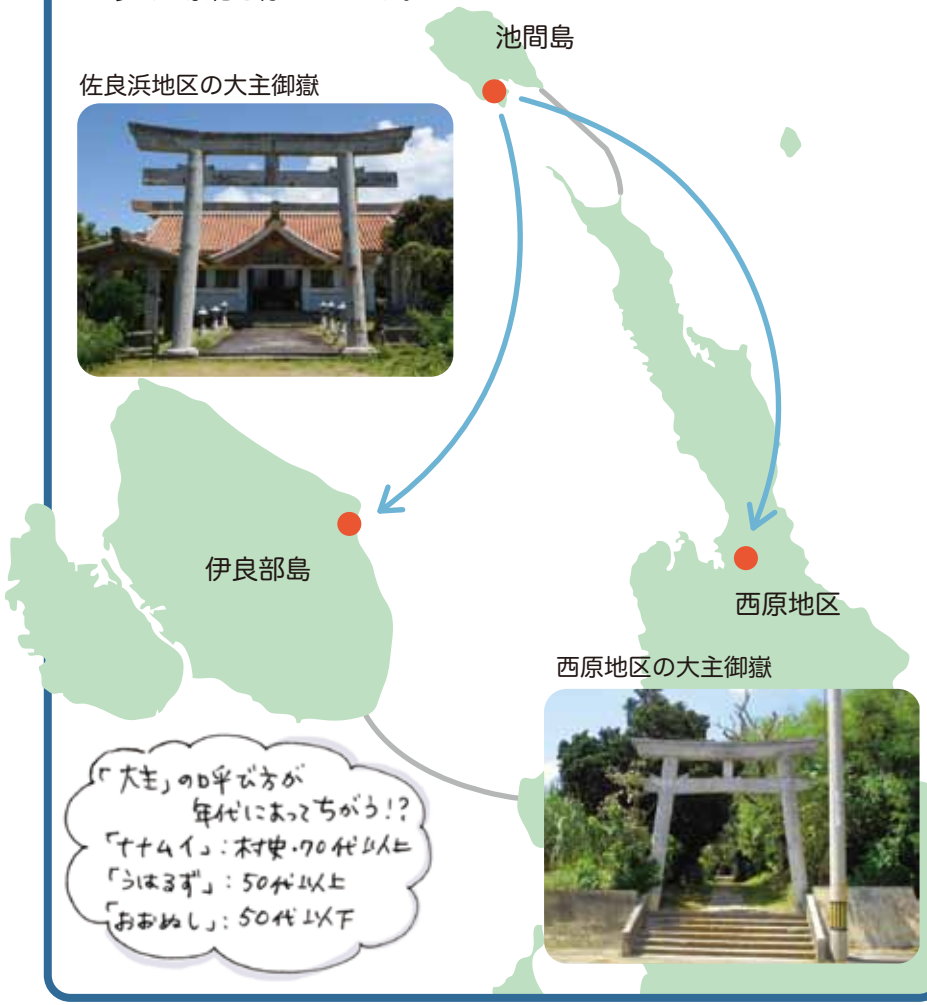
現在では神社風の建物に改築され、この御嶽を中心として多くの祭祀が行われています。

3つの大主御嶽

大主御嶽は、池間島の人々の信仰の中心となる御嶽です。

池間島から佐良浜や西原地区に移民した人々は、移住先でも大主御嶽を建て、ミャークヅツをはじめとした多くの祭祀を行っています。

池間島の大主御嶽



命根御嶽

命根御嶽は、人間の生命をつかさどり、魂を養っているとされる「ばがばうがなす」が祀られています。人生で道に迷い居場所を見失った時、この神様の助けで戻って来ることができると信じられています。

里に暮らす人たちの命の源(根っ子)として敬われ、航海安全や豊漁祈願のみならず、日々の生活の中に御嶽への祈りが根付いてます。

秋田の人が祀られる大和神屋 〜秋田能代船 漂流記〜

1744(乾隆9)年11月5日、秋田県能代の門田与次衛門ら8人が乗った船が、函館で積んだ荷を江戸へ運ぶ途中、金華山沖(宮城県石巻市)で大嵐にあいました。帆柱を失い沈没しかけながら、大海原を漂うこと80日。翌年1月24日に、下地島のナガピダ(下地島空港付近)の砂洲へ流れ着きました。

久保田藩(秋田県)の佐藤晩得が、当時74歳になる与次衛門から聞き取ってまとめた「清街筆記」に、漂着時のやりとりが残されています。

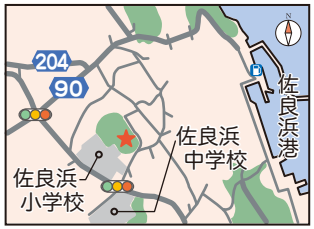
”待望の島が見え、麦畑の見える浅瀬に船を寄せて碇を下すと、大勢の人が群がり大騒ぎとなっていた。やがて、くり船が近づいて与次衛門たちの船に男が乗り込み、「ここは琉球のいらぶしまだ」といった。与次衛門は「我々を殺すか？」と聞くと、「殺さぬ」と男はいい、さらに「船を修理して、大和に還してやる」と応えた。”

どうにか助かった与次衛門らは、食事や衣装などを与えられ、一週間ほど佐和田で静養しますが、島にたどり着く前にふたりの乗組員が餓死しており、与次衛門は島民の人たちに埋葬を頼みます。遺体は、せめてもの慰みにと、郷里・能代の方角が見渡せる佐良浜のヨコダキ(横岳)の地に、丁重に埋葬されました。

その後、佐良浜で弔ったふたりの初七日を済ませ、蔵元のある平良へと移り、伊良部島を離れます。損傷の激しかった船の修理にふた月ほどかかりましたが、1745(乾隆10)年4月、一行は宮古島を出帆。途中、苦楽を共にした水先案内人を病で失いますが、13ヶ月ぶりに郷里の能代へと帰還しました。

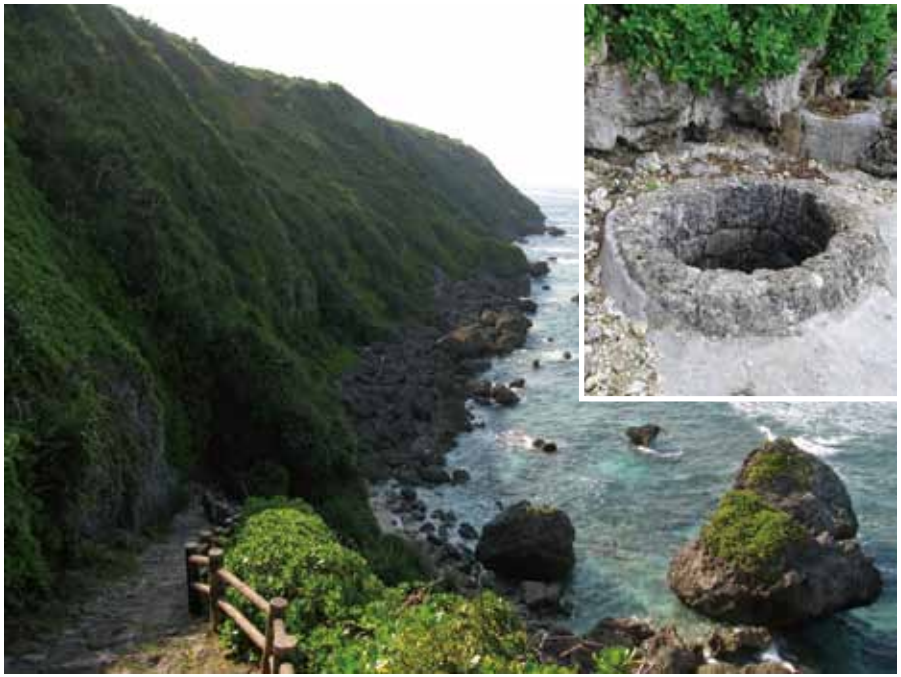
与次衛門らが島を去った後も、横岳の墓は島の人々に守られ、やがて大和神屋御嶽として祀られるようになります。大和の人が関わる御嶽は学問の神様とされることが多く、いまは学問の神様としても敬われています。

参考：秋田さきがけ新聞(1989)



市指定史跡　1975(昭和50)年8月1日指定

サバウツガー



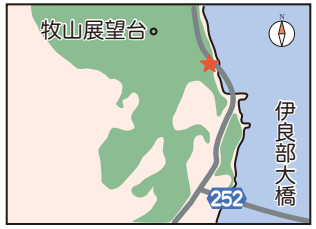
サバウツガーは、井戸と階段までを含めた周辺一帯が史跡に指定されています。1966(昭和41)年8月に簡易水道が敷かれるまで、240年以上も佐良浜の人たちの生活用水として活用されてきました。海から見た地形がサメの口に似ているということから「サバウツ」と呼ばれています。潮の干満によって塩辛く、飲料水としては適していません。

※島の方言でサメを「サバ」、口を「ウツ」と言う

市指定史跡　1979(昭和54)年8月3日指定

ヤマトブー大岩

この山のような巨岩は、大昔の地殻変動により、琉球石灰岩層が地上にむき出しになった一部で、高さ25m、直径18m、重さ3万トンあまりのトラバーチン*1です。ここから切り出されたトラバーチンは、沖縄県産の装飾石材として国会議事堂にも使われています。また、この岩は比屋地に住み着いた人たちが、積上の浜へ向かう目印であったといわれています。



*1 トラバーチン：琉球石灰岩の一種。硬い石質で、磨きあげると美しい紋様が浮かびあがり、高級装飾石材とされている

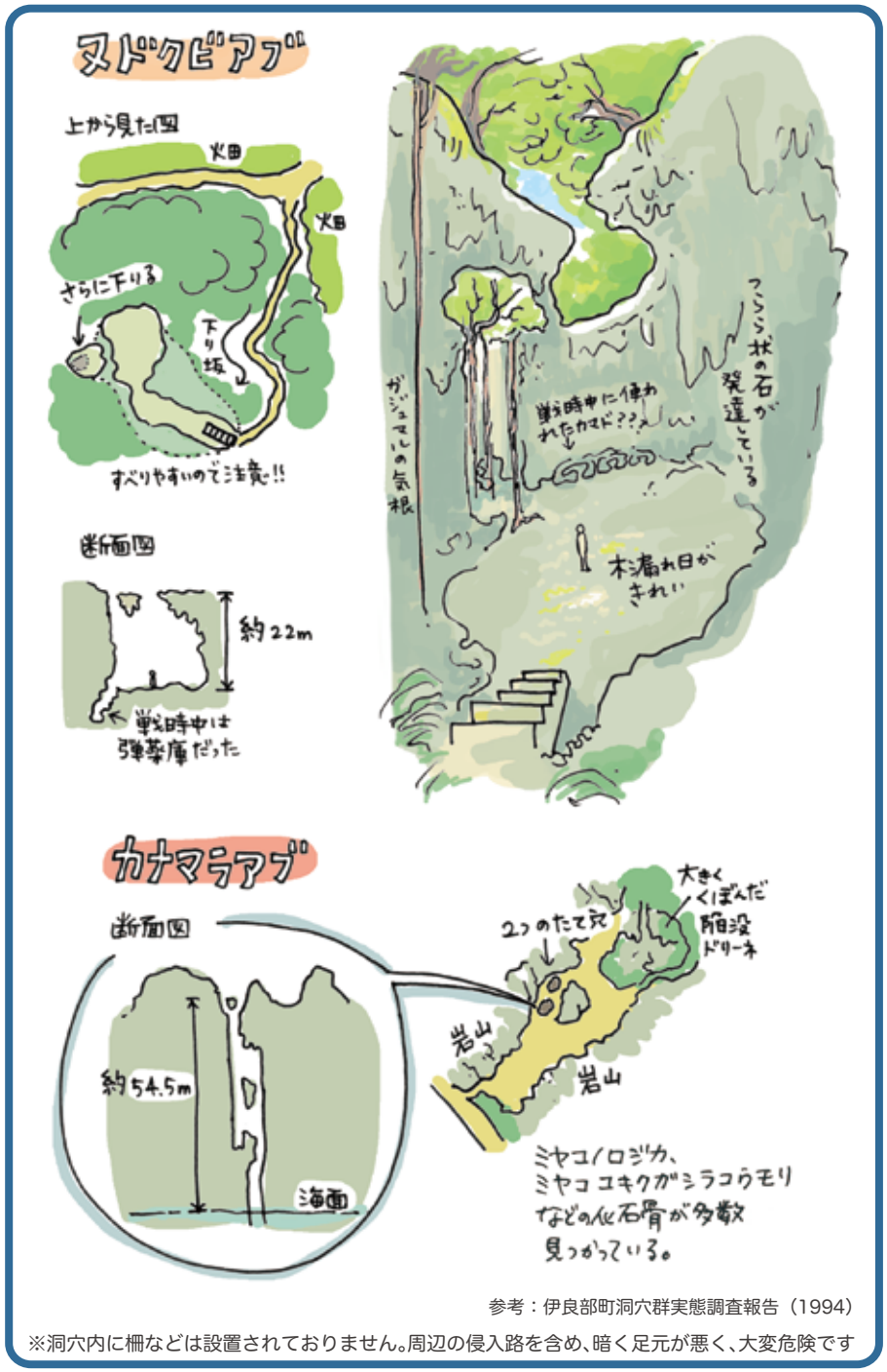
市指定史跡　1994(平成6)年6月25日指定

牧山台地のアブ群

伊良部島南東部の牧山台地に、雨水や地下水の浸蝕でできた縦穴のアブ(洞穴)群があります。深いものでは70m近くあり、内部からは化石骨なども見つかっています。

また、鍾乳石が発達している洞穴もあり、地質学的にも貴重な区域となっています。

※７つのアブはそれぞれ個別に史跡の指定がされていますが、ここではまとめて紹介しています



参考：伊良部町洞穴群実態調査報告（1994）

※洞穴内に柵などは設置されておりません。周辺の侵入路を含め、暗く足元が悪く、大変危険です

市指定史跡　1994（平成6）年6月25日指定

ピャーズ御嶽（クンマウキャー）

1380年頃、久米島より兄弟が来島しました。兄は八重山へ、弟はこの地で人々に鉄の農具を作り、農法を伝え、また礼法も指導し、住民から信頼と尊敬を受けていました。

弟の死後、人々は比屋地に御嶽を建て、守り神「あからともかね」として祀りました。

また、この御嶽には、大鱶(サメ)を退治した豊見氏親が脇神として祀られています。

豊見氏親ものがたり

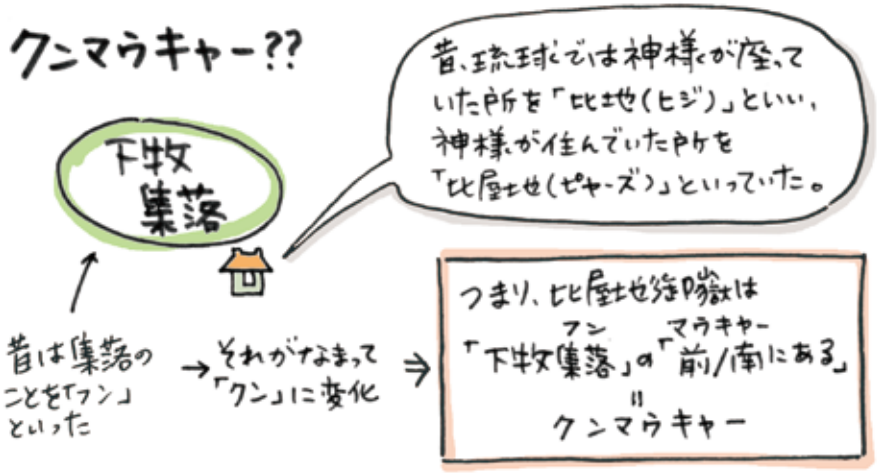
昔、伊良部島に豊見氏親という強く勇ましく、恐れ知らずの勇者がいました。その頃、平良と伊良部の間の海に大鱶が現れ、行き交う船を転覆させては人々の命を奪っており、皆とても困っていました。

そのことを知った豊見氏親は、大鱶の退治にのりだしました。比屋地御嶽で必勝を祈り、ひとり小舟で沖へ漕ぎ出しました。ところが、大鱶に船もろとも飲み込まれてしまいました。豊見氏親は大鱶の腹の中で刀を抜き、腹を何度も切りつけ、ついには大鱶を退治します。夕方、腹を切り裂かれた大鱶が浜に打ち上げられたので、これを見た島の人々は大鱶の腹を裂いて豊見氏親を助け出しますが、豊見氏親は身体中傷だらけで、まもなく息絶えました。

島の人々は豊見氏親を比屋地に葬り、脇神として祀りました。

参考：雍正旧記（1727年）

市指定古文書・典籍　刀剣及び古文書



※地域によってクン・フンなど、呼び方が変わる

南区（伊良部）佐和田・長浜・国仲・仲地・伊良部

南区(伊良部)には、北から、佐和田、長浜、国仲、仲地、伊良部の５つの字があり、「漁業の佐良浜」に対し、「農業の伊良部」といわれるほど、広大な農地が広がっています。

歴史の中で初めて伊良部島の名が登場した「朝鮮王朝実録」によると、1477年に与那国島へ漂着した済州島民は、島伝いに本国へ送還される途中で伊良部島を訪れます。藍染の苧麻の衣服をまとい、大麦を中心に、黍、粟、稲などを栽培し、米麹を用いた酒を作っていたと、当時の島の様子がくわしく記録されています。

さとうきびと島

南区の農業の中心はサトウキビです。冬の製糖期になると、ケーンハーベスターがうなりをあげてサトウキビを収穫する様子は、とても迫力があります。家族総出でサトウキビ畑へ繰り出し、一本一本手作業でサトウキビを刈ってゆく風景は、今では少なくなっています。

下地島と空港

細長い入江を隔てて伊良部島と隣り合う下地島は、とても平坦な島で、古くから耕作地として利用され、伊良部島と一体となった農業が行われています。

そんな下地島に、戦後、本土復帰を前に、パイロット訓練施設を軸とした空港建設計画が持ち上がります。軍事施設に利用されるのではと心配する声があがり、建設の是非を巡って島を二分する騒動となりました。

1971（昭和46）年、日本政府と当時の屋良朝苗琉球政府行政主席との間に交わされた「屋良覚書」によって、現在も平和的な利用が促されています。

下地島空港は1979（昭和54）年に大規模空港並みの3000mの滑走路を有する国内唯一のパイロット訓練施設として開港して以来、「イラブブルー」の海上を飛ぶ航空機の写真で一躍有名になり、航空マニアのみならず、観光スポットとして高い人気を博しました。

現在、実機による訓練は大幅に縮小されましたが、息を呑む美しいその風景は健在です。

入江と集落

伊良部島と下地島の間は「入江」と呼ばれる細長い海で隔てられており、その海を渡るために６つの橋が架けられています。下地島空港の建設に伴って架けられた乗瀬橋を除く５つの橋は、それぞれの集落と下地島を結んでいます。集落の中心である村番所から、農地として利用されてきた下地島へのメインストリートのようになっており、当時の歴史を伺うことができます。

また、複雑に入り組んだ地形を持つ入江は、生活の近代化に伴って一部は埋め立てられてしまいましたが、いまも多種多様な動植物が棲み、古くから人々に恩恵をもたらしてきました。

伊良部の製塩業
1860年代に始まった製塩は、明治時代に島の主要産業になった。大正時代に塩が専売制となり、衰退。昭和時代に再び隆盛を誇るも、戦争により下火に。戦後、物資不足から盛況をみせるも、1972年の返還で再び専売制となり、廃業を余儀なくされた。

佐和田・長浜 散策マップ

所要時間：約80分

佐和田の浜

珊瑚礁・礁瑚面 P32

300余りの津波石
大津波で
押しげられた岩々

魚垣 P34

下地島空港

ながそね橋

グンカンジー

岩にはいろんな
名前がついている

ガザミジー

佐和田の浜

このあたりを
ナガピダ
と言った

漢那橋

たいこ橋

このあたりが
塩田だった

アラガー P36

平和の森
公園

いんた橋

昔はこのあたり
まで入江だった

五ケ里道

古い
石垣が残る

長浜
公民館

コヤガー

1686年に
掘られた
共同井戸
（雍正旧記より）

※漢那橋と、いんた橋は
昔はもっと橋らしかった。

204

長浜村
番所跡
1766年に
佐和田村の
南半分が分村

フダヤガー
という大きな
井戸があった

国仲

黒浜御嶽 P30

START

ユークイ
「世乞」
年に一度の豊年祭

お供え物
がいっぱい

白鳥崎

ウクナガー
明和の大津波が
ここまで来たと
言われている

佐和田
児童館

佐和田村
番所跡
1686年に
村建て

フカガー
（共同井戸）

アカンタガー
（共同井戸）
昔は美しい洞泉
で、若者が集って
いた。

アカンタガー
赤い土井戸

204

佐和田ユークイ P37

長浜

佐和田

東大嶺神社

腕山御嶽 P38

佐良浜

1962年の入江の位置（参考：国土地理院）

市指定史跡　1994(平成６)年６月25日指定

黒浜御嶽

この御嶽は村建ての伝説を持ち、兄妹産子神を祀っています。旧暦六月の酉の日に行なわれる「六月願い」は、佐和田、長浜に生まれた女の人や、黒浜御嶽にお願いをして子宝に恵まれた夫婦が、毎年参加する習わしがあります。

この日は、旅に出ている人の無事を海に向かって祈る「ポカオサギ願い」も行ないます。

村建てのお話

昔、天の神様が兄妹の産子神を黒浜の地に降ろし、人間をたくさん作るように言いました。

ところが兄妹の最初の子どもはブフズ(雑魚)でした。２番目の子どもはアパ(オコゼ)で、３番目の子どもはウナズ(海蛇)だったので、みな海へ還しました。

二人は悲しんで神様に相談すると、「夜、ユナの葉を二人の間に置いて寝なさい」と教わりました。

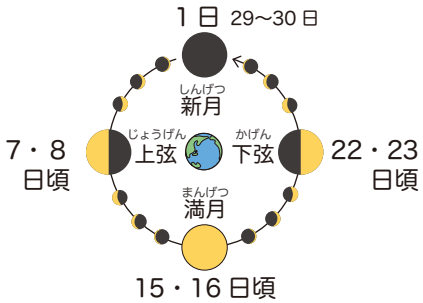
そのとおりに暮らしていると、ようやく、４番目に人間の子どもが誕生しました。こうしてたくさんの子どもを作り、村ができました。

参考：伊良部村史 (1978)

旧暦と干支

旧暦とは

月の満ち欠けと太陽の運行をもとに作られた「太陰太陽暦」のこと。日本では、1872(明治５)年まで「天保暦」が使われていました。昔からの風習や、行事の多くはこの旧暦に従って行われています。



干支とは

「十干」と「十二支」を組み合わせ、60を周期とした数詞で、暦や時間、方位などに用いられます。

1. 甲子　2. 乙丑　3. 丙寅　4. 丁卯　5. 戊辰　6. 己巳　7. 庚午　8. 辛未　9. 壬申　10. 癸酉　11. 甲戌　12. 乙亥

13. 丙子　14. 丁丑　15. 戊寅 … 順に十干と十二支を組み合わせていく→ … 58. 辛酉　59. 壬戌　60. 癸亥

60の組み合わせが終わったらまた始めにもどる

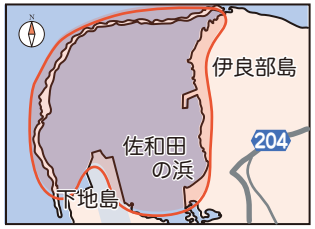
それぞれの干支には、「子」は子孫繁栄・財、「午」は豊作・健康といった意味がある。

市指定名勝　1994（平成６）年６月３日指定

佐和田の浜珊瑚礁・礁湖面

佐和田の浜は「日本の渚百選」にも選ばれた礁湖です。浅瀬に点在する300余りの岩々は、大津波で打ち上げられたと言われています。潮が引くと内海潟原と言われる干潟が現れ、干満によっていろいろな姿を見ることができ、特に水平線に沈む夕日は格別です。

遠浅の湾は様々な生き物が棲み、昔から優れた漁場として島の人々の生活を支えてきました。



さまざまな珊瑚礁

裾礁

ビーチのすぐ近くに発達したサンゴ礁のことで、宮古島では吉野海岸や新城海岸などで観察でき、県内でもよく見られる形状。

堡礁

地殻変動や海面上昇で陸地が沈んだあとも、裾礁が成長を続けてできた、陸地から離れた場所にあるサンゴ礁のこと。佐和田の浜の礁湖を囲むサンゴ礁は、これに分類される。

環礁

堡礁の中の陸地がすべて沈み、環状のサンゴ礁になったもの。南太平洋に多く見られ、キリバスやマーシャルなど、環礁が陸地化して人が暮らしている島もある。

礁湖

下地島 佐和田

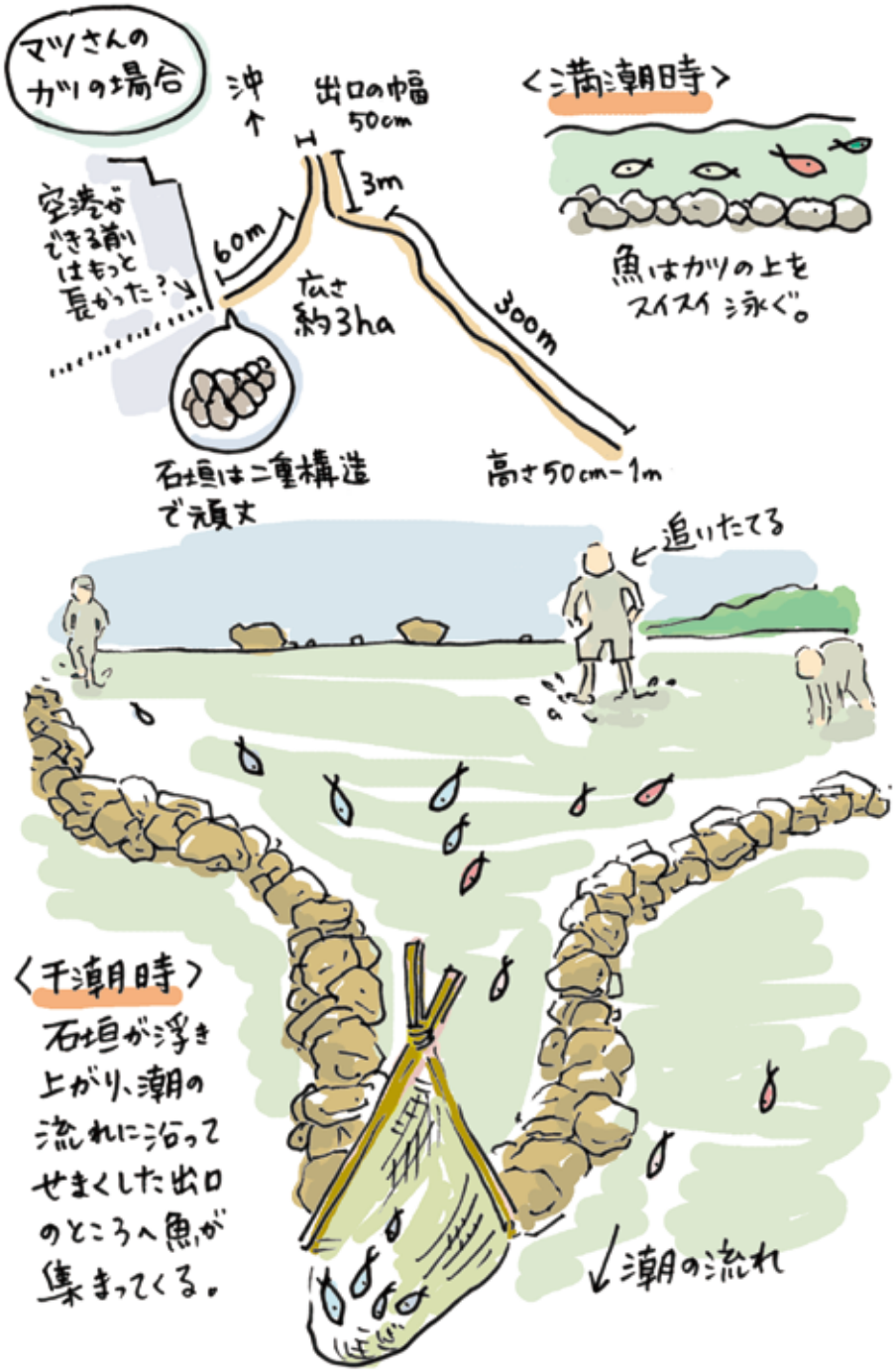
一般にラグーンと呼ばれ、堡礁や環礁によって外洋と隔てられた内海のこと。波浪の影響を受けにくく、海面が湖のように穏やかなのが特徴。裾礁の場合は海の面積が狭いことから、礁池と呼ばれる。

市指定有形民俗　1979（昭和54）年5月11日指定

魚垣

遠浅の海に積み上げられた石垣を「魚垣」といい、潮の満ち引きをうまく利用した伝統の漁法で、かつては7カ所もの魚垣がありました。現在は下地島空港の滑走路東側に、ひとつだけ残され、保存されています。

この魚垣は、1850年頃に善平マツさんによって造られたと言われています。



市指定史跡　1980(昭和55)年6月26日指定

アラガー

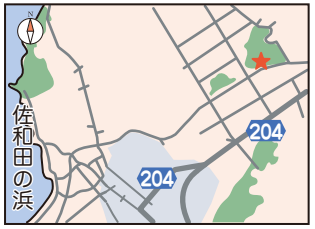
佐和田集落の西側にあるアラガーは、佐和田井とも呼ばれ、集落が形成される元となった古い井戸です。昔、このあたり一帯は広大な雑木林で、その林に鳩がしきりに出入りしていることから、湧き水を見つけたという伝承があり、「鳩の見つけ井戸」とも呼ばれています。井戸の構造は湧き水の縁を石で囲った簡単なもので、15世紀頃、集落の繁栄に伴って現在の形に改修されました。

市指定史跡　1994(平成6)年6月25日指定

佐和田ユークイ（嵩原御嶽）

※御嶽は祭祀などを行う大切な場所です。神聖な場所なので入らないようにしましょう

佐和田のユークイが行われる嵩原御嶽には、「大世の主」が祭神として祀られています。「大世の主」は1457年に沖永良部島から漂着した人々のひとりで、大竹中洞穴で仮暮らしをしていました。やがて水を求めて南へ移動し、黒浜に流れ着いた八重山の人々と集落を作り、農耕技術や礼法などを指導して村を発展させました。その功績により尊敬を集め、「大世の主」と呼ばれるようになりました。

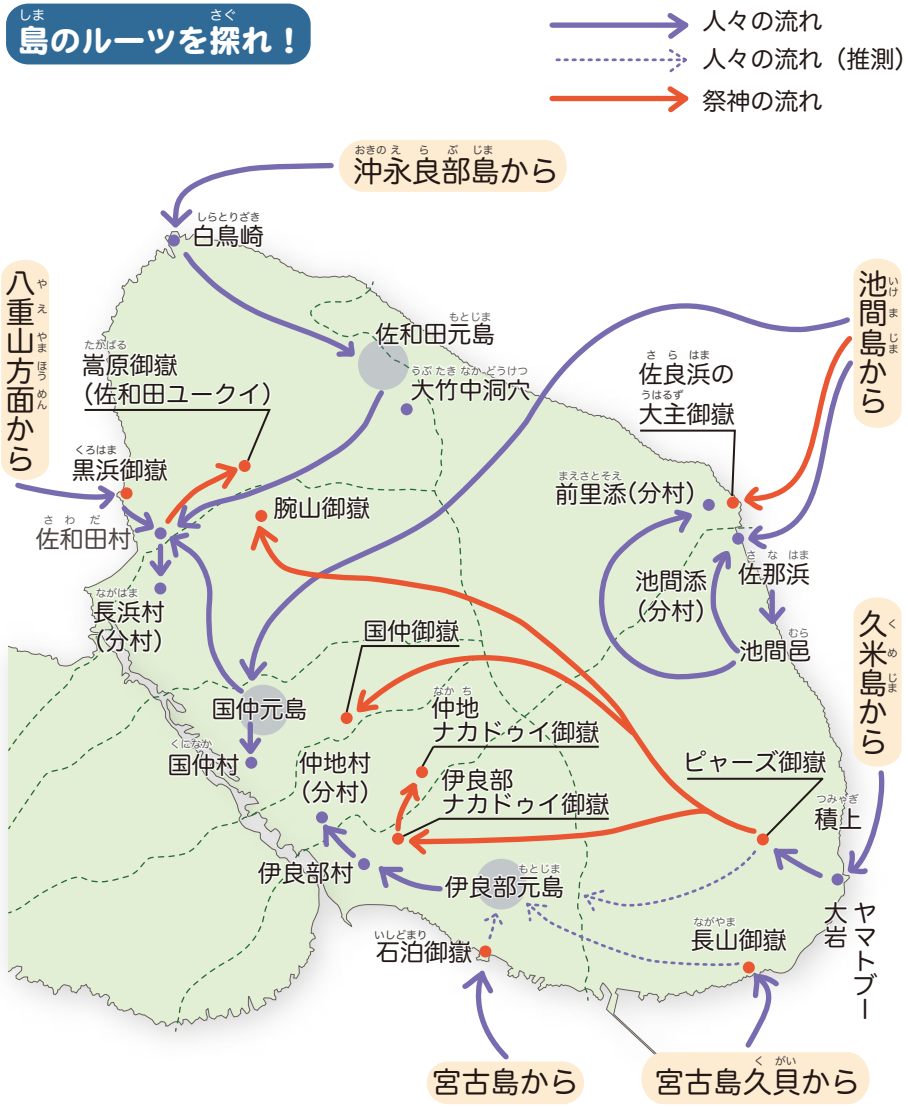


腕山御嶽

※御嶽は祭祀などを行う大切な場所です。神聖な場所なので入らないようにしましょう

長浜にある腕山御嶽は、「ユークイ」など多くの祭祀が行われます。「ユークイ」とは豊年祭のことで、「ユー」は豊かな世、「クイ」は乞うを意味しています。長浜をはじめとした伊良部、仲地、国仲で行われているユークイは、比屋地御嶽に祀られている「あからともかね」が祭神ですが、佐和田ユークイでは「大世の主」が祭神となっており、集落のルーツの違いを知ることができます。

島のルーツを探れ！



参考：正保の国絵図（1646）/ 伊良部村史（1978）

市指定天然記念物(地質)　1979(昭和54)年2月9日指定

大竹中洞穴

洞穴は杓文字型をした広い陥没ドリーネの崖面にあり、ここからはミヤコノロジカや人の歯の化石も見つかっています。広々とした底面にはオオクサボクの群落をはじめ、さまざまな植生を見ることができます。

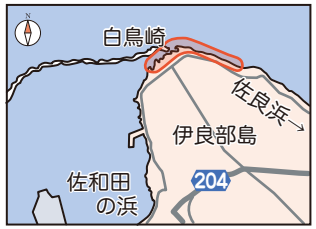
伝承によると、この洞穴には沖永良部島から流れ着いた人々が住んでいたとされ、この地域にとって重要な場所といえます。

市指定名勝　1994（平成6）年6月25日指定

白鳥崎岩礁海岸地域

伊良部島の北西部に位置するこの海岸地域は、風化や浸蝕によって作られた荒々しい岩礁地帯です。約200～600万年前にできた質の違う琉球石灰岩が地表に現れており、色や岩肌などの違いを観察することができます。

現在、白鳥崎周辺は西海岸公園となっており、亜熱帯特有の岩礁性植物を数多く見ることができます。

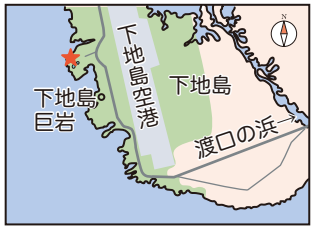


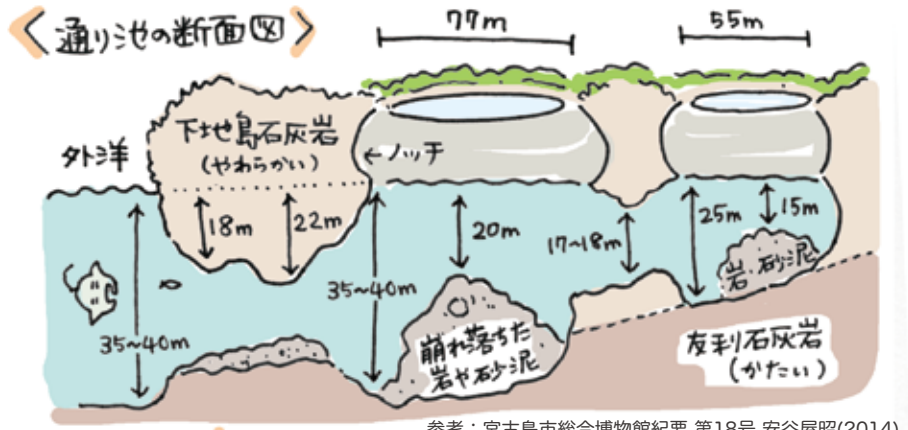
国指定名勝・県指定天然記念物（地質）　2006（平成18）年7月28日指定

下地島の通り池

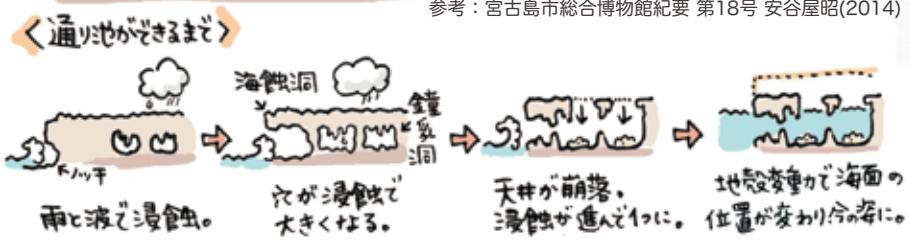
下地島の西海岸に位置する通り池は、幅50mを超すふたつの縦穴で、地下で海と通じています。石灰岩が浸蝕され、天井部分が崩れ落ちた鍾乳洞(陥没ドリーネ)と、波に削られてできた海蝕洞とが繋がってできているこの不思議な地形は、地質、地形学的にも貴重です。

また、海中の神秘的な形状は、ダイビングスポットとしても人気があります。





参考：宮古島市総合博物館紀要 第18号 安谷屋昭(2014)



継子伝説

昔、下地島に妻に先立たれ、息子と暮らす漁師がおりました。やがて再婚をし、３人は仲良く暮らし始めましたが、子どもが生まれると、継母は前の妻の子を疎ましく思うようになりました。

ある日、継母は兄弟を通り池に連れていき、兄をツルツルした岩場に、自分の子である弟をゴツゴツした岩場に寝かせました。そしてその夜、継母はツルツルした岩場に寝ていた子を池に突き落とし、残った子を背負って一目散に家へと走り出しました。ところが、背負っていた子が「弟はどうしたの？」と尋ねるのです。兄は、岩がゴツゴツして眠れないという弟と場所を交代していたのでした。間違って我が子を殺したことに気がついた継母は、背中の子を放り出すと、そのまま自分も通り池に飛び込んで命を絶ってしまいました。

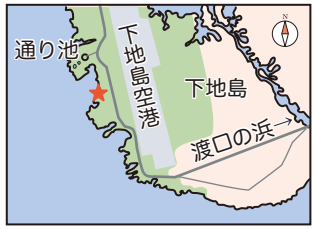
今でも池のそばには「継子台」と言われる岩が残っています。

参考：伊良部村史(1978)

市指定史跡　1979(昭和54)年6月1日指定

下地島巨岩

外径59.9m、高さ12.5m、推定約２万トンもの巨岩は、津波石とも呼ばれ、過去の大津波で打ち上げられたと考えられており、自然災害のスケールの大きさを感じることができます。こうした巨岩は数多くありましたが、空港建設に伴って取り除かれ、今はひとつだけ残されています。岩の中央がくびれているため、「オコスクビジー」(帯を締めた大岩)、「帯岩」と呼ばれています。



ヨナタマ伝説 ～繰り返し押し寄せた古代大津波の証～

昔、下地島に木泊という村がありました。ある晩、村の漁師が上半身は人間、下半身は魚という、摩訶不思議なヨナタマという大きな魚を釣り上げました。珍しがった漁師は、翌日、村のみんなと食べることにしました。

その夜遅く、漁師の隣の家の子どもが「伊良部島に行こう」と泣き出し、どんなになだめても泣き止みません。母親が子どもを抱いて外に出ると、沖の方から「ヨナタマ。ヨナタマ。お前はどこにいる？早く竜宮に戻っておいで」と威厳に満ちた声が響いてきました。

それは竜宮の王が娘のヨナタマを心配して呼ぶ声でした。漁師の家に捉えられていたヨナタマは、「お父様、私はもうすぐ殺されます。早く大波を送って助けてください」と応えました。それを聞いた母親は怖くなり、急いで子どもと一緒に伊良部島へ逃げました。しばらくすると大波が押し寄せ、島中のありとあらゆるものを洗い流してしまいました。

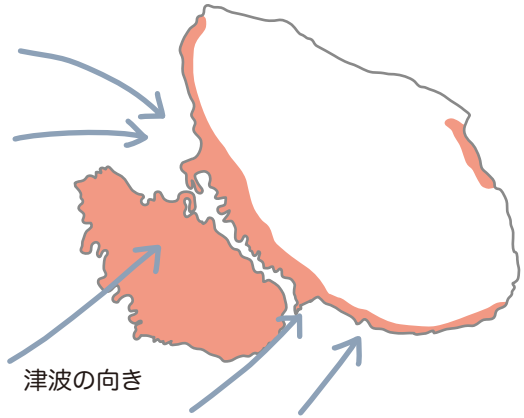
命からがら逃げて生き延びた親子が大波の引いた村に戻ってみると、漁師の家と自分の家があった所には、大きな穴があき、ふたつの池ができていました。

この時にできた穴が、「通り池」だと言われています。

参考：宮古島記事仕次 (1748)

乾隆三十六年大波（明和の大津波）

1771(明和８)年、旧暦の３月10日午前、マグニチュード7.4の地震が発生し、宮古・八重山諸島へ大津波が来襲。宮古諸島では2,461名の死者が出たと古文書(「思明氏家譜」付属文書)に記されています。



津波が到達した地域

参考：伊良部村史 (1978)

国仲 散策マップ

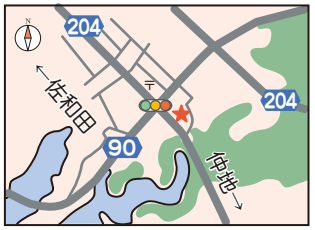
所要時間：約30分

1972年の入江の位置（参考：公文書館）

伊良部村役場跡

1908(明治41)年に、琉球王府の行政区分のひとつであった３間切から、平良、城辺、下地、伊良部の４村に改められました。1981(昭和56)年に、伊良部島と下地島は伊良部村とし、長浜地区に移転するまで、役場は国仲に置かれていました。

また、役場跡の碑の横には、1980年に那覇と下地島を結ぶ定期航空路線の就航を記念した石碑が建てられています。



伊良部島の発展に尽力した村長 国仲寛徒

初代伊良部村の村長である国仲寛徒は、1873(明治６)年、下地間切佐和田村に生まれました。伊良部島出身で初めて沖縄師範学校を卒業し、平良尋常小学校の先生を経て、伊良部尋常小学校の校長を務めます。当時、平良にしかなかった高等科を開設したり、のちに寛徒自身が校長となる佐良浜の分校を、佐良浜尋常小学校として独立させるなど、子どもたちの教育に尽力しました。

そして1908(明治41)年に伊良部村が設立されると、村長に任命され、今度は伊良部島の発展のために奮闘します。

1915(大正５)年、村の産業の発展には交通網の整備が不可欠であると、南区の５つの集落を結ぶ道を村民の労働奉仕によって建設しました。その道は今もしっかり５つの集落を結んでおり、地域の人たちは親しみを込めて「五ケ里道」と呼んでいます。

こうして初代村長として人々に慕われ、５期にわたって伊良部島発展の基礎を作り上げた寛徒ですが、任期半ばの1929(昭和４)年、56歳で病に倒れました。

これらの功績を讃えた石碑が、村役場跡周辺や、宮古島市伊良部庁舎に建てられています。

頌徳碑

頌徳碑レプリカ
(伊良部庁舎内)

五ケ里道開鑿記念碑

公教育発祥之地

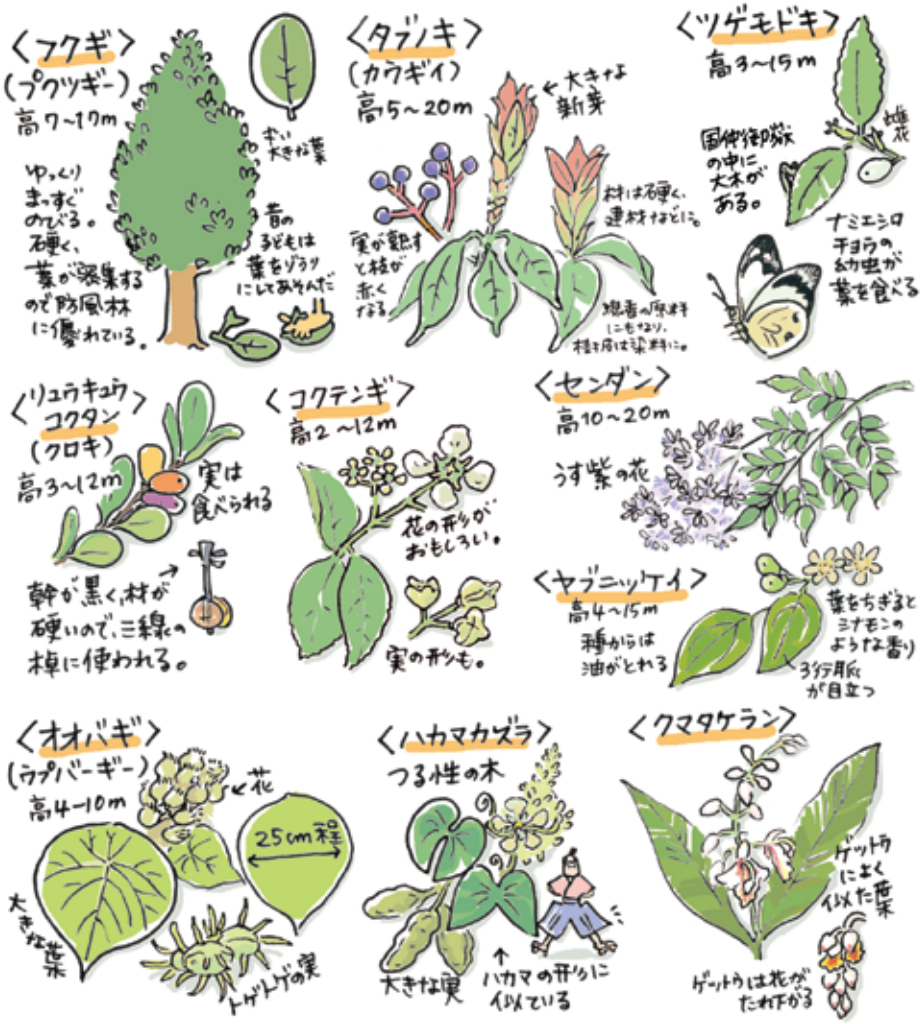
県指定天然記念物（植物）　1974（昭和49）年2月22日指定

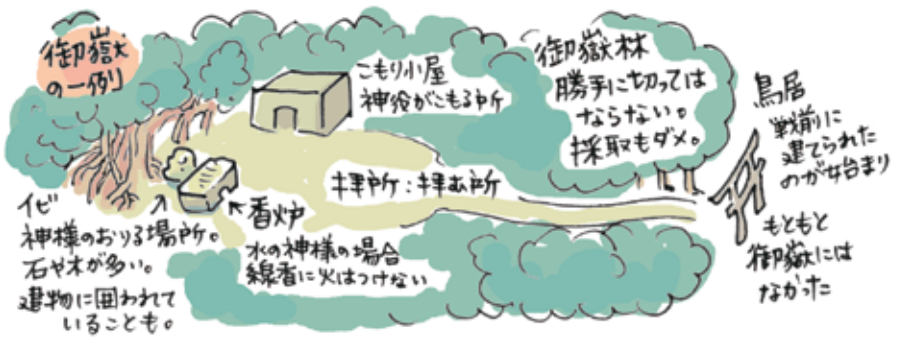
国仲御嶽の植物群落

※御嶽は祭祀などを行う大切な場所です。神聖な場所なので入ることはできません。

この御嶽は国仲集落の人々から大切にされている御嶽で、「ユークイ」などの多くの祭祀が行われており、祭祀以外で中に入ることはできません。

古くから聖域として保護されていた御嶽の周りには、60種ほどの植物が生い茂っています。全域がうっそうとしており、宮古諸島の中でも最も自然林に近い森林が残されています。



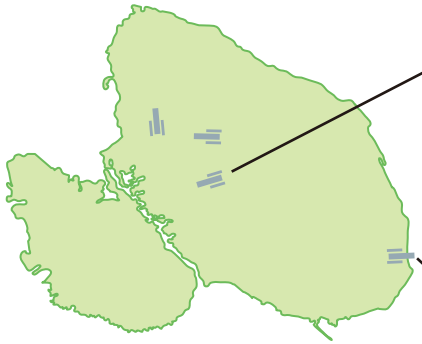


伊良部島の戦跡

第二次世界大戦では、宮古島は米軍の上陸があるとされていました。そのため、敵の上陸地点を地形から想定して、各所に水際陣地、特攻艇秘匿壕、海軍砲台などを構築し、兵力を配置しました。

伊良部島には、1944（昭和19)年に独立混成第59旅団(約3,600名)が伊良部地区防衛のために配備されました。伊良部国民学校に本部が置かれ、佐良浜国民学校は野戦病院として使用されました。そして、牧山や国仲などでは、大砲を設置するための壕を構築しました。

地域住民は、壕を掘る作業に駆り出されたり、各集落で様々な物の供出をしました。また、子どもたちは馬のエサを刈りに行ったり、野草を採るといった協力をしていました。



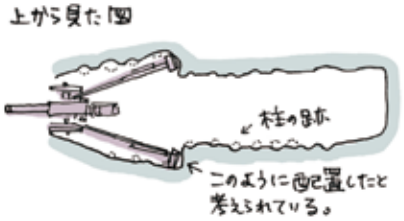
忠魂碑

日露戦争後、1914(大正３)年に小越原に建立された

慰霊碑

伊良部地区遺族会によって1963(昭和38)年に建立された

国仲砂川の壕



国仲砂川で確認された３つの壕は、いずれも壕口の部分が三角形状になる特徴をもっています。

これは、大砲の脚を開いたときの形態に沿わせたと考えられています。聞き取り調査では、榴弾砲が格納されていたという証言が得られています。

牧山陣地壕

牧山の頂上近くに設置された陣地壕で、平良港を守るために作られました。石灰岩を掘り込んだ壕で、「野戦重砲第１大隊第１中隊」と「山砲第28連隊第３中隊」が駐屯していました。

仲地・伊良部散策マップ

所要時間：約60分

仲地

- 仲地のナカドゥイ御嶽 P63
- 神里ガー P64
- ダキフガー P65

伊良部村番所跡
伊良部公民館
交番
カーイ
大きなガジュマルの木
セメント工場
204
佐和田の浜
五ケ里道
仲地村番所跡（1766年に伊良部村の御物を分村）
仲地公民館
津波避難施設
伊良部橋
昔は島だった
仲地橋（湊橋）
252
通り池
タンク

1972年の入江の位置（参考：公文書館）

伊良部

- 伊良部のナカドゥイ御嶽 P62
- フナハガー P61
- スサビミャーカ P60
- 伊良部丸（共栄丸）遭難の碑 P03
- ウプカニ御嶽 P58
- 乗瀬御嶽 P58

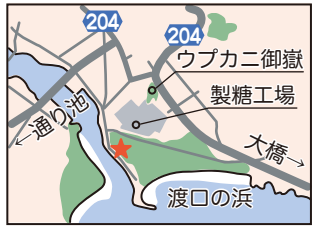
アダンニャ御嶽
伊良部大橋
204
大きなガジュマルのある御嶽
昔、塩田だった公園
製糖工場
渡口の浜
旧桟橋
START
乗瀬橋
フツモト口元御嶽
亀島
南の口元御嶽

市指定史跡　1994(平成6)年6月25日指定

乗瀬御嶽

渡口の浜に接した森の西端にある乗瀬御嶽は、航海安全の女神であり、島の守護神でもある「玉メガ」を祀っています。

かつて行われていた「カンウリ」という祭祀は、集落の中にあるふたつの御嶽で祈願した後、乗瀬御嶽に籠って5日4晩の「願い」を行います。この祭祀では、御嶽と御嶽の間を移動するツカサらの行列に、男性は出逢ってはならないという男子禁制の習わしがありました。



玉メガものがたり

むかしむかし、フナハガーの近くに暮らす、ウプカニという夫婦の間に、16歳になる玉メガというたいへん美しい娘がいました。

父のウプカニはとても人望の厚い人でした。ある年、干ばつで飢饉になった村に、雨乞いの御願を行いたいと考えました。しかし、やり方がわからなかったため、御願の方法を習いに、八重山へ旅立ちました。

父の帰りを待つ玉メガは、そろそろ戻ってくる父を喜ばせようと、父が好きな豆腐を作るために、乗瀬の浜へ潮汲みに出かけました。

ところが、玉メガがいつまでも帰ってきません。不審に思った母は、浜に様子を見に行きましたが、玉メガの姿はどこにもありませんでした。

しばらくしてウプカニも八重山から戻り、夫婦で玉メガを探しまわりましたが、どこにも娘の姿は見当たらず、夫婦は嘆き悲しみました。

3ヶ月ほどたったある日。乗瀬山へ出かけたウプカニ夫婦の前に、玉メガが忽然と湧き出るように立ち現れました。夫婦はとても喜び、娘のもとに走り寄って抱きしめようとしましたが、玉メガは「私はこの島の護り神となりました」と言い残し、乗瀬山へ姿を消してしまいました。

ウプカニ夫婦はようやく逢えた娘との別れを惜しみ、乗瀬山に御嶽を建て、女神となった娘の玉メガを祀りました。

この時に作られた御嶽が、のちの乗瀬御嶽だと伝えられています。

参考：伊良部村史 (1978)

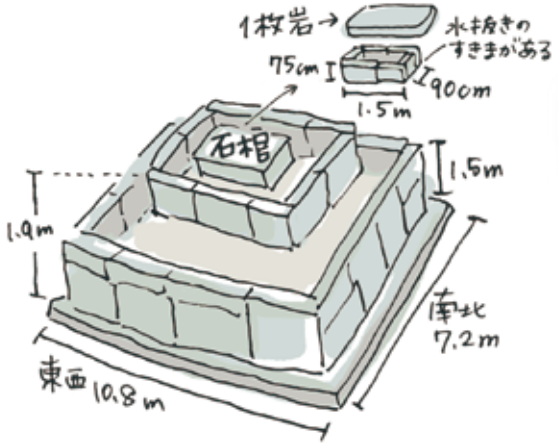
ウプカニ御嶽

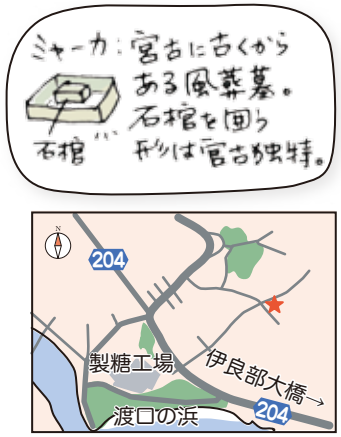
製糖工場の北隣にある、玉メガの両親を祀った御嶽。かつてこの御嶽の森は、娘の玉メガが祀られている乗瀬御嶽まで続く、乗瀬山と呼ばれる大きな森でした。

市指定史跡　1978(昭和53)年11月15日指定

スサビミャーカ（巨石墓）

この巨石墓は1600年頃建造されたと考えられ、現存する伊良部地区のミャーカの中では、規模が最も大きく、石の加工技術も優れています。誰を葬ったのかは、わかっていません。

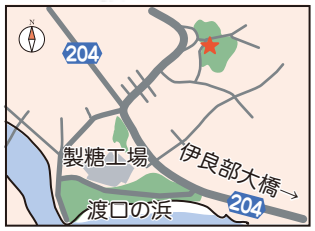




市指定史跡　1981(昭和56)年7月28日指定

フナハガー

フナハガーは、集落の東側、伊良部ナカドゥイ御嶽の隣にある洞泉です。この井戸に祀られている女神は、集落の西にある神里ガーの神とともに、夫婦神として大切にされています。水量が豊富なため、1961年頃から製糖工場の水源として活用されています。



伊良部のナカドゥイ御嶽

※御嶽は祭祀などを行う大切な場所です。神聖な場所なので入らないようにしましょう

この御嶽は、集落東側の森の中にあり、ピャーズ御嶽の神「あからともかね」を迎えて「ユークイ」などの祭祀を行います。伊良部のユークイは、まず、公民館の拝所で口開けという儀式を行ってから、ナカドゥイ御嶽で主たる祭祀を行います。午後からはアダンニャ御嶽、乗瀬御嶽、フツモト御嶽を廻り、最後に集落内にあるカーイという井戸へ赴いて、祭りを終えます。

仲地のナカドゥイ御嶽

※御嶽は祭祀などを行う大切な場所です。神聖な場所なので入らないようにしましょう

仲地集落の北方にある、通称「根原山」に、仲地のナカドゥイ御嶽はあります。この御嶽も伊良部のナカドゥイ御嶽と同様に、「ユークイ」などの祭祀は、ピャーズ御嶽の神「あからともかね」を迎えて行っています。

仲地集落は伊良部集落から分村したため、親子の関係にあり、両集落で同時に行う祭祀は、親である伊良部集落が優先して行います。

市指定史跡　1981(昭和56)年7月28日指定

神里ガー

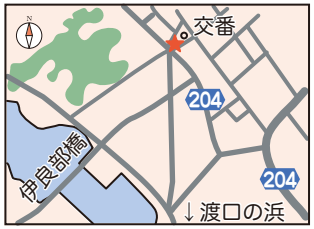
1430年頃、この一帯はススキや茅の生い茂った窪地でした。牛が前脚で窪地を掘っていたので、洞泉が見つかったと伝えられており、集落の発展に大きな影響を与えました。

神里とは、「神様の集まる所」という意味だと考えられており、「生まれ元島の水」として神事に使われ、いまも信仰の対象となっています。

市指定史跡　1981(昭和56)年12月23日指定

ダキフガー

ダキフガーは五ケ里道に面した六差路にあります。昔、この一帯はダキフ(ダンチク：イネ科の多年草)の群生があり、その中に湧き水があったことから、ダキフガーと名付けられたといわれています。集落の発展とともに改修され、直径が2mを超える掘り抜きの井戸になりました。現在は蓋がされ、中を見ることはできません。傍らにはヤスルギーと呼ばれる大きなガジュマルと御嶽があります。



市指定名勝　1994（平成６）年６月25日指定

下地島南・西岩礁海岸

東シナ海に面した下地島の南・西側海岸に広がる岩礁地帯は、岩相の異なる石灰岩が雨水などによって浸蝕され、荒々しく複雑な岩々が続き、見ごたえのある風景が広がっています。周辺には名勝として名高い「通り池」に代表されるドリーネも数多くあり、沖縄の岩礁地帯の特徴をよく表しています。また、海中の地形も変化に富み、ダイビングスポットとしても人気です。

伊良部島の歴史

西暦	年号		対象ページ
1370 年頃		久米島から「あからともかね」が来島したといわれる	22
1430 年頃		フナハガー、神里ガー発見	61・64
1457	天順 1	沖永良部島から「大世の主」が漂着したといわれる	39
1477	成化 13	「朝鮮王朝実録」に伊良部が記録に初めて登場する	24
1600 年頃		スサビミャーカが造られたといわれる / ダキフガー発見	60・65
1637	崇禎 10	人頭税が課せられる	
1686	康熙 25	佐和田村が村建てされる	28
1720 年頃		池間島から佐那浜（佐良浜）へ移住	08
1737	乾隆 2	国仲村が村建てされる	48
1745	乾隆 10	秋田能代船、下地島に漂着	17
1766	乾隆 31	佐和田村から長浜村が、伊良部村から仲地村が分村	28・48
1771	乾隆 36	明和の大津波	47
		被害が甚大だった宮国、新里、砂川、友利に南区の５ケ村から移住	
1840 年頃		佐良浜の大主御嶽建立	14
1850 年頃		魚垣が善平マツによって考案される	34
1860 年頃		塩田による製塩が始まる	27
1872	同治 10	**琉球藩となる**	
1873	同治 11	初代伊良部村長、国仲寛徒が佐和田に生まれる (1929 年没)	51
1873	同治 11	独逸商船ロベルトソン号が宮国沖で遭難	
1879	明治 12	**沖縄県となる**	
1903	明治 36	人頭税廃止	
1908	明治 41	間切廃止、伊良部村設置	50
1909	明治 42	佐良浜でカツオ漁とカツオ節の生産が始まる	08
1914	大正 3	日露戦争の忠魂碑建立	54
1915 年頃	大正 4	糸満からアギヤー漁が伝わる	09
1915	大正 5	五ヶ里道開通	51
1940	昭和 15	伊良部村有船「共栄丸」遭難事故	03
1941	昭和 16	第二次世界大戦（太平洋戦争）勃発	54
1944	昭和 19	伊良部に独立混成第 59 旅団を配備	54
1945	昭和 20	第二次世界大戦終戦	54
1952	昭和 27	**琉球政府創設**	
1961 年頃	昭和 36	フナハガーの水を製糖工場に利用	61
1963	昭和 38	伊良部地区遺族会により慰霊碑建立	54
1966	昭和 41	佐良浜簡易水道完成	18
1972	昭和 47	**日本本土復帰**	
1979	昭和 54	下地島空港開港	25
1981	昭和 56	村役場が国仲から長浜に移転（現 伊良部支所）	
1982	昭和 57	伊良部町制施行 / 日本初の近代パヤオ漁導入	09
2005	平成 17	５市町村合併、宮古島市誕生	
2015	平成 27	伊良部大橋開通	03

※琉球史の慣例により、1372～1878年は中国との朝貢関係を重視して中国年号で表示しています

文化財の体系図

文化財の種類

特に価値の高いもの

特に重要なもの

重要なもの

特に必要のあるもの

保存と活用が特に必要なもの

保存できるよう考える必要のあるもの

文化財

- **有形文化財**
  - 指定 → **重要文化財** → 指定 → **国宝**（世界から見ても価値が高い、国の宝）
  - 登録 → **登録有形文化財**

  建造物
  美術工芸品　工芸品、絵画、彫刻、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料など、形のあるもの

- **無形文化財**
  - 指定 → **重要無形文化財**
  - 選択 → **記録や作成などを考える必要のある無形文化財**

  演劇、音楽、工芸技術などの、形のない、人間の「わざ」そのもの

- **民俗文化財**
  - 指定 → **重要有形民俗文化財**
  - 指定 → **重要無形民俗文化財**
  - 登録 → **登録有形民俗文化財**
  - 選択 → **記録や作成などを考える必要のある無形民俗文化財**

  有形民俗文化財　無形民俗文化財に使われる衣装、器具、家屋など
  無形民俗文化財　衣食住、生業、信仰、年中行事などに関する風俗習慣、民俗芸能、民俗技術

- **記念物**
  - 指定 → **史跡** → 指定 → **特別史跡**
  - 指定 → **名勝** → 指定 → **特別名勝**
  - 指定 → **天然記念物** → 指定 → **特別天然記念物**
  - 登録 → **登録記念物**

  遺跡　貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅など
  名勝地　庭園、橋梁、渓谷、海浜、山岳など
  動物
  植物
  地質鉱物

- **文化的景観**
  - 都道府県または市町村の申し出に基づいて選定 → **重要文化的景観**

  地域の人々の生活または生業及び地域の風土によって形成された景観地　棚田、里山、用水路など

- **伝統的建造物群**
  - 市町村が決定 → **伝統的建造物群保存地区** → 選定 → **重要伝統的建造物群保存地区**

  宿場町、城下町、農漁村など

- **文化財の保存技術**
  - 選定 → **選定保存技術**

  文化財ではないが、保護の対象となっているもの。文化財の保存に必要な材料や用具の生産制作、修理・修復の技術など

- **埋蔵文化財**

  土地に埋まっている文化財

それぞれの文化財の一例

※宮古島市や、沖縄県、九州にある文化財の一例

有形文化財

形のあるもの

- 指定 → **重要文化財**
  - 豊見親墓（とうみやばか）3基（どうゆみやばか3き）
- 指定 → **国宝**
  - 治金丸（じがねまる）/ 沖縄県（おきなわけん）
- 登録 → **登録有形文化財**
  - 旧西中共同製糖場煙突（きゅうにしなかきょうどうせいとうじょうえんとつ）

無形文化財

形のないもの

- 指定 → **重要無形文化財**
  - 宮古上布（みやこじょうふ）
- 指定 → **重要有形民俗文化財**
  - ウイピャームトゥの祭場（さいじょう）

民俗文化財

生活に関係したもの（かんけい）

- 指定 → **重要無形民俗文化財**
  - 宮古島のパーントゥ
- 登録 → **登録有形民俗文化財**
  - 竹富島の生活用具842点 / 沖縄県竹富島（たけとみじまのせいかつようぐ / たけとみじま）

記念物

- 指定 → **史跡**（歴史上の名所（れきしじょうのめいしょ））
  - 遠見番所（とおみばんしょ）
- 指定 → **特別史跡**
  - 吉野ヶ里遺跡（よしのがりいせき）/ 佐賀県（さがけん）
- 指定 → **名勝**
  - 東平安名崎（ひがしへんなざき）
- 指定 → **特別名勝**（景色のよいところ（けしき））
  - 識名園（しきなえん）/ 沖縄県
- 登録 → **登録記念物**
  - 仲本氏庭園（なかもとしていえん）/ 沖縄県 石垣島（おきなわけん いしがきじま）
- 指定 → **天然記念物**
  - オカヤドカリ
- 指定 → **特別天然記念物**（貴重な自然を記念するもの（きちょうなしぜん））
  - イリオモテヤマネコ

文化的景観

人間と自然が作ってきた景色（にんげん）

- 指定 → **重要文化的景観**
  - 別府の湯けむり・温泉地（べっぷのゆけむり）/ 大分県（おおいたけん）

伝統的建造物群

歴史的なまちなみや景色（れきしてき）

- 指定 → **重要伝統的建造物群保存地区**
  - 竹富島の農村集落（たけとみじまのうそんしゅうらく）/ 沖縄県 竹富島

選定保存技術

文化財の保存に大事な技術

- 苧麻糸手績み（ちょまいとてうみ）

埋蔵文化財

埋まっているもの（う）

- 住屋遺跡（すみやいせき）

私たちの文化財です
大切にしましょう

文化財を許可なく無断で現状変更することは法律で禁止されています。

教育委員会
公認アプリ

このアプリケーションは、GPS機能を利用したコース案内が可能なほか、現地で文化財の説明などを閲覧することができます(ダウンロードをしておけば、ネット環境が不十分な場所でも文化財の閲覧が可能です)。

ポータルサイト

宮古島市neo歴史文化ロード　**綾道(伊良部島コース)**

発行　平成29年３月
編集・発行　宮古島市教育委員会
〒906-0103沖縄県宮古島市城辺字福里600番地１
TEL 0980-77-4947　FAX 0980-77-4957
イラスト・デザイン　山田　光
平成28年度宮古島市neo歴史文化ロード整備事業